

こほくとしょかん

江北図書館だより

<発行> 公益財団法人 江北図書館

2016(平成28)年10月1日 発行

〒529-0425 長浜市木之本町木之本 1362 ☎0749-82-4867

第14号

開館時間 午前9:30～午後5:00(日曜日は午後2時まで) 休館日 毎週月曜と第1・3日曜祝日

江北図書館文庫の資料から見えてくる

伊香高の歴史を見守り続けた

「土功碑」誕生の物語 その①

江北図書館文庫研究会・江北図書館評議員 河下 太勇

伊香高等学校は、明治29年、組合立の農業補習学校として産声を上げました。明治33年には組合立から伊香郡立となり、その後の郡制廃止とともに、大正11年県立に移管されます。戦争による混乱期を経て、現在まで県立学校としてその歩みを続け、今年誕生から120年になり、11月19日には、その記念の式典も行われるそうです。



中でも94年前、郡立から県立に移管された時には大きなドラマがありました。当時湖北には、すでに県立の長浜農学校、開校したばかりの県立虎姫中学があり、財政上の理由から、県は伊香農学校の県立への移管には消極的でした。当時の郡長松原五百蔵は、伊香農学校を何としても県立学校として存続させるべく奔走します。その結果、建築費用の一部5万円(当時)、一万坪の校地の提供を条件に移

管が認められることとなります。

校地予定地は、賤ヶ嶽の合戦で秀吉方の砦ともなった田神山麓の傾斜地。郡は、その整地事業を行う必要がありました。大正11年9月17日、松原郡長は会議を開き、3万郡民総動員での土木工事の所思を表明します。数日後にはこれに呼応して農業団体などが動き出し、やがては郡民こぞっての整地作業(土功)へと広がります。そして、翌大正12年8月までの1年足らず間に見事に難工事の整地を成し遂げたのです。整地を終え、万歳三唱した8月31日の翌日に、関東大震災が起こっています。

県立伊香農学校は、すでに大正11年4月に設置され、この整地事業の途中、10月15日に3日間にわたる盛大な開校式関連行事を行っています。開校式時点では、校地整備の進捗は、およそ半分であったといえます。式後も郡民によって整地は進められ、まさに「三

万一心」で学校を作り上げたのです。このことは、以前その土功の様子を示した写真とともに、この図書館便りでもご紹介したことがあります。

さて、すでに大正 12 年 4 月には廃止された郡制ですが、郡長及び郡役所は残務処理のため大正 15 年の 7 月まで存置されることになっていました。校地整備を終えた郡は、「三万一心」のこの一大事業を、永く人々の記憶にとどめるべく、石碑の建立を決めます。それが、現在も伊香高校、野神の森の中に残る「土功碑」です。土功碑の隣には、初代校長小久保金蔵氏の遺徳を讃える「頌徳碑」があります。(伊香高校のホームページには碑文や意味がわかりやすく紹介されています。) これらの碑が、どのようにしてこの地に建立されたのか。滋賀大学に保管されている江北図書館文庫の中に、たくさんの興味深い資料が残されていました。

県立となった学校に、新たに碑を作るにあたっては県の承認が必要となります。「頌徳碑」の方は、大正 8 年、すでに郡立伊香農学校の敷地内に建立されていたのですが、これを新校地に移転するためにも手続きが必要となるのです。郡は県の承認を受け、業者等とも丁寧なやり取りを行う中で、碑文を選定し、石碑の形などを工夫して完成させました。そして、開校式翌年の大正 13 年 11 月 2 日、開校式同様、県知事はじめ多くの来賓を招いて盛大な除幕式を挙ります。今から 93 年前です。このことは、当時の郡、そして郡民が、学校建設を悲願とし、「三万一心」のこの事業をいかに大切に思っていたかを示しています。二つの石碑は、それ以来、ずっと同じ場所で、伊香高校の歴史を見守り続けてきました。



次回以降は、碑文の作成過程や石碑の制作者などについて 県からの石碑建設と移転承認書
ご紹介したいと思います。

江北図書館文庫フォーラム <報告>

大阪教育大学名誉教授 塩見 しのぶ 昇

2016 年 3 月 26 日に滋賀県長浜市の木之本公民館で開かれた標記のフォーラムに、いささかの縁があって参加することになったので、その概要を報告し、併せて江北図書館のコレクションの近況について紹介しようと思う。

江北図書館は、1902 (明治 35) 年に弁護士 杉野文彌 (日本図書館協会の評議員も務めた) が郷里の伊香郡余呉村中之郷に設けた「杉野文庫」を前身とし 1906 (明治 39) 年に伊香郡役所所有の施設を借用して財団法人江北図書館として発足した私立図書館である。東京で苦学していた杉野が大日本教育会附属書籍館を利用した経験から、その意義を体得し、ぜひ郷里に図書館を作って若者に読書の機会を与えよう、と私財を投じたことに起源を持ち、既に 110 年の歴史を重ねている。

1980 年代までは日本で「図書館不毛の県」の最たるものであった滋賀県において、伊香郡関係者をはじめ多くの地元篤志家の力に支えられ、湖北における唯一の図書館として存在してきた。しかし、図書館を維持する財源は厳しく、施設の老朽化も激しく、その存在は絶えざる苦難の連続であった。

2007 年の創立 100 周年記念式典には、私も日本図書館協会理事長として、当時の長尾真国立国会館長とともに列席し、富田光彦理事長・館長等の長年の苦勞をねぎらった。2011 年に公益財団法人として再発足し、2013 年には 100 余年にわたる地域文化への貢献が評価されて「サントリー地域文化賞」を受賞し現在に至っている。

しかし、年来の風雪に耐えた施設の老朽化は厳しく、保存する史資料の保全が緊急の課題とされてきた。それがこのほど滋賀大学経済学部の筒井正夫教授らの尽力により、同学部に新設された総合研究棟「土魂商才館」（彦根市）において保管し、経済経営研究所が管理する「使用貸借契約」が結ばれ、貴重な歴史資料約 1 万 2000 点の移管が実現した。



今回移管された史資料は「江北図書館文庫」として一括し、所有権は江北図書館に残し、管理責任は滋賀大学が負う「使用貸借」の形を採っている。土魂商才館に搬入された史資料は、筒井正夫ゼミの卒業生である久岡道武学芸員（琵琶湖疏水記念館）の手で目録が作成され、全体が見えるようになっている。現物の保管状況は、洋装本はすべて可動式の書架に開架し、和装本・文書は文書箱に収めて貴重書庫に収蔵されている。今後はその利用、公開をどのように行っていくか、資料のデジタル化など保全の方策が検討課題となっている。

そこでそれらの検討のために、江北図書館の関係者、滋賀大学経済経営研究所の関係者で「江北図書館資料研究会」が組織され、定例的な研究協議に着手している。その一環として、これまでの経緯と「江北図書館文庫」の内容の周知、今後の「文庫」活用の在り方への地域の声を聞くことを目的に、開催されたのが標記フォーラムである。



(左から 2 人目が筆者)

場所は江北図書館にほど近い木之本公民館で、土曜日の午後の 3 時間ほどであるが、50 余名の人が参加し、関心と期待のほどがうかがえるいい集まりだったと思う。

資料目的の作成に当たった久岡氏による「江北図書館文庫」の紹介がフォーラムのハイライトで、氏はスライドを使って、「文庫」資料の構成、特徴、意義、予想される活用可能性などについて説明し、

あらためて貴重でユニークな史資料が少なくないことに気付かされた。

「文庫」を構成する史資料は次のような区分からなる。

- | | |
|-------------------|---------|
| ① 江戸時代以降の和装本 | 4,282 点 |
| ② 明治・大正時代の洋装本 | 5,319 点 |
| ③ 旧伊香郡役所文書などの一次資料 | 2,196 点 |

伊香郡役所文書（504 点）、伊香相救社文書（568 点）、『近江伊香郡史』関係資料等（834 点）、伊香郡内絵図（109 点）など

郡役所の文書が行政全般にわたって、これほど多岐に集積され、よく保存されているのは珍しいとのことで、個人的にも尋常小学校の平面図がごっそり残っているなど、興味をそそられた。

国立国会図書館のデジタルアーカイブとの重なり調べもすでに着手されており、国会図書館にない資料についてデジタル化を行なうことなどが今後の作業課題となっている。この図書館の利用記録、資料の寄贈者についての記録等々、図書館史研究の面でも貴重な資料が少なくないと思われる。

なお、「文庫」コレクションを搬出した後の江北図書館は、これまで通り木之本駅前の館舎で私立図書館としての活動を続けている。

以上は「江北図書館フォーラム」にパネラーとして参加された塩見昇前日本図書館協会理事長の『日本図書館文化史研究会ニューズレター』第 136 号に掲載文の転載です。

「考える力」を伸ばす 4 イベント開催・・・江北図書館の本を活用

理事 にの みや たもつ
二 宮 保

平和堂財団の助成を受け、この夏休みに 4 つのイベントを開催しました。

☆マインドマップを使った読書感想文支援：マインドマップを使って感想文を書きました。8 日間でのべ 68 人の小中学生がやってきて、楽しんで感想文を仕上げました。

☆ふるさと紹介ホームページ作成：町の気に入った箇所の写真をもとに記事を書き、ホームページに載せました。作成の技術とともに郷土愛を育てようと計画しました。

☆楽しい折り紙：図書館の折り紙の本を見て、折り、わからない所を指導者が支援をするという形で折ってもらいました。イベントが終わってからも参加してくれる子もいました。

☆山の木々を自分の力で調べよう：伊香具山友会と共催で自然観察会を開催しました。様々な植物図鑑を持って観察しました。木の名前を言うとそれぞれ自分が持っている図鑑の索引で調べ、「あった！」と声を上げ友だちに見せていました。

